

# 伊太利ところぐ (二七)

瀧川規一

【フ市での有名な掘出し物(續き)】 アレッツォの伯爵ギド・フランチェシニの妙齡の夫人フランチェスカ・ポムピリアは怪僧と共に羅馬にある親の家に向つて夫君の家を出發したが、途中で捕縛されて裁判所に送られた。然るに法廷の判決が伯爵の意に滿たなかつた。妻は尼院預けとなり僧は三年間ところ拂ひとなつた丈である。伯爵は道ならぬ妻を離婚しようとして計畫してゐる間にポムピリアが近々母とならんとして居り母體のためを慮り尼院から親の家に移されてゐることを聞いた。ポムピリアの親は當時羅馬の市城門外の小別荘に住んでゐた。數ヶ月するとポムピリアは一人の男兒を産んだ。兩親は直ちに赤坊を安全な處に匿した。これを聞いて伯爵の頭には種々な感情が錯綜して起つて來た。

心は益亂れるばかりである。悪く云へば世間體の爲め、良く云へば名譽の爲に復讐心がもたらへと起つて來た。それに利己的な慾心も手傳つた。伯爵は憤懣の燃ゆるがまゝに遂に女を亡き者にしその兩親をも殺害せんと企てた。その目的の爲めに四人の惡漢を語らつた。四人はもと伯爵の土地に働いて居た者であつた。彼等五人もアレッツォを出發してクリスマスの前晚羅馬に着いた。ポンテ・ミルヴィオ(Ponte Milvio)にある伯爵の兄弟の別荘に身を秘そめて機會の至るを待つた。その家からコムパリの一家の者等の動靜を窺つた。一月の二日木曜日の夕方コムパリの家に五人打揃つて出かけた。ビアジオ・アゴスチネリ(Biagio Agostinelli)とドメニコ・ガムバシニ(Domenico Gambasini)の

兩惡漢はコムバリニの家の門を警戒し、他の一人は戸口を叩いた。チヅイタ・ヴェツキヨに居るカボンサツキから手紙を持つて來たとその男が云つたのでヴェイオランテによつて戸口は開けられた。伯爵は他の二人の幫助者に助勢されて直にヴェイオランテに襲ひかゝり之を殺した。

養母の仆れる物音によつてポムピリアはそれと悟り直に家の内の燈火を消して刺客の手から逃れ出でよふと思つた。さうして隣家の鍛冶屋の門口まで行き援けを叫んだ。然し伯爵が提灯を用意してゐるのを見てポムピリアは走つて寢床の下に身を匿した。然し伯爵の爲めにひき摺り出されて滅多斬りに斬られ二十二ヶ所の傷をうけて遂に仆れた。それ丈けで満足せず妻をひきづつて養父の足許につれて行つた。養父のコムバリニも亦他の暗殺者の手にかかつて重傷を負ひ死前に懺悔する時間を與へよと叫んでゐた。

この恐ろしい虐殺の物音に近隣の人々は駈け

つけた。惡漢等は迅速に其場を逃れたが、餘り慌てたので一人は外套、伯爵は帽子を置き忘れた。若妻フランチェスカ・ポムピリアは無残に切りさいなまれたが、痛手を負ひながら聖母マリアに祈願をこめ懺悔をなす時間の餘裕を與へられんことを祈つた。奇蹟的にこの願が協へられ彼女は暫時生命をとりとめた。その間に恐ろしき慘劇の様子を述べた。其の語る處によると、伯爵は彼女を切りつけた後まだ息がひきとつて居ないならばとゞめをさせと協力者に命じた。刺客の一人は彼女が全く死んでゐると云つた時伯爵はそれでは一刻も猶豫ならぬ別荘へひきあげよと云つて現場を去つた。間もなく警官がやつて來た。警察署長をはじめ懺悔聽聞の役僧及び外科醫が來て不幸なる娘の世話をした。娘が切りつけられたのはお産の二週間後であつた。

市の知事は事件の突發を聞いて直に警官隊長パトリツヂ (Patrian) を派して犯人の跡を追は

しめた。ボムピリアから聞いた處によつて別荘に警官隊が急行したが犯人は其處に居らず一時間以前に街道筋に向つて既に立ち去つた後であつた。警官等は直に追求したが、街道端の宿屋の亭主の談によると、フランチェシニ伯爵は亭主に向つて馬を貸せと命じたが拒絶したので徒歩でバツカノ (Baccano) の方向に行つたと云ふ。警官等は更に歩を伸ばして追求し途中必要なる警戒を怠らずメルツァ (Merluzza) の宿に着くと其處で犯人を見つけ速に逮捕を了つた。其時犯人等は猶血に汚れたナイフをもつて居りフランチェシニは百五十金を身につけてゐた。逮捕の際警官隊長は惡漢の爲めに輕傷をうけ癒えずして後日遂に落命した。伯爵のもつてゐたナイフはゼノア型の三角の形をした刀であつた。又に刻みがついてゐるので一度切りつけると、刀を引き抜く時は肉を裂開し爲めに傷は不治のものとなる性質のものであつた。

犯人等はボンテオ・ミルヅイオまで連行され

伊太利ところへ

豫め派遣されてゐた裁判官及び書記等によつて調査をうけ要點を告白した。犯人等の逮捕が羅馬に知れると、犯人等が馬上に縛られて羅馬入りをなす光景を見物せんとて群衆は押寄せて來た。羅馬に護送される途中フランチェシニは警官に向つてどうして犯罪と遁走の道順が判つたかと聞いた。警官はボムピリアが未だ餘命を保つてゐて告げたからだと答へた。それを聞いたギド・フランチェシニは只呆然たるばかりであつたと云ふ。他の二人の協力者はチャ・ヂ・カステロ (Citta di Castello) と云ふ町の出身であつて一人はフランチェスコ・ヌスキニ (Francesco Pasquini) と云ひ他の一人はアレサンドロ・バルデッシ (Alessandro Baldeschi) と云つて、兩人共に二十二歳の青年であつた。

慘殺されたコムバリニ一家の屍體はルチナのサン・ロレッツォの寺院に運ばれ其處で一般に公開された。いづれも見ると影もない程に慘たらしい有様を呈してゐたが殊に娘は顔面を滅多斬り

にされたため誰とも見分け得ぬ程に悲惨な様子をしてゐた。この不幸な娘は生命を暫時の間とりとめて居る間に聖餐式を受け犯人等の罪を赦し遺言をなし、基督出現節に當る一月の六日に永眠した。彼女は斯くて夫君が今迄浴びせかけて居た凡ゆる誹謗汚名を一切拂ひ除けて聖母の許に行くことが出来た。芳紀僅かに十七歳である。屍體を見た人々は慘忍なる行爲を見て只驚くばかりであり、七十代の老夫婦十七歳の娘の哀な最期に戦慄を禁じ得なかつた。

犯人等の裁判が開始された。多くの書類が原告被告其地關係者から提出された。その大多數は虐殺の犯罪性を述べるものであつたが或るものは犯人等を辯護するものもあつた。殊に職務上から弱貧者の辯護役をつとめるスプレツチ(Spreti)の提出した書類に至つては犯人を辯護するに博學を披歴し大に努力したので遂に判決を延期せしめた程であつた。判決延期に與つて力あつたものはこの辯護士の書類以外に他にも

有力な事實があつた。共犯者たる青年バルデツシが打繩で拷問をかけられても否認を續けたからであつた。然し青年は遂に一切を告白し他の連類も亦告白した。彼等が適當なる時に伯爵を殺害せんと欲してゐたことも明になつた。兇行後羅馬を退去する時に手渡すと約束した金を伯爵が與へなかつたからである。

二月の二十二日に羅馬のピアツァ・デル・ポロ(Piazza del Popolo)と云ふ廣場に大きなプラットフォームを設けられ其上に一臺の斷頭臺、二臺の絞首臺が据えつけられた。見物人の便利の爲めに數臺の物見臺が造られた。處刑の光景を見んとて集つた群衆は餘りに多くて準備した物見臺では事足りない。處刑場の見える家の窓は窓毎に十數圓の見料が得られた。フランチェシニは刑場への出場を朝八時に宣告された。それより以前に既にフランチェシニは獄内の慰靈室に留置かれアバテ・バンチアチチ(Abate Paraciaci)及びカーデナル・アツチアデユオ

リ (Cardinal Acciajuoli) の兩僧の世話で死に就く身心の準備を整へた。十二時には「死と哀悼の使者」と呼ばれる役人が來た。犯人等は別々の車に載せられて刑場に運搬された。處刑臺上にあつては伯爵は絶えずキリストの名を唱へ他の犯人等よりも落着き冷靜な態度を示してゐた。伯爵は犯行當時の衣服を其まゝ着けてゐる。身體にびつたりと合つた灰色の上着、寬やかな黒シャツ、山羊の毛で織られた外套、白の山高帽と木綿製の夜帽を着けてゐた。これが伯爵の最後の日の様子であつた。

ポムピリアは既に述べた如く聖母に祈つて奇蹟的に末期の生命を延ばし得て其間に十人の人間が彼女を調べた。彼女が夫君に對して何等疚ましい罪を犯してゐないことをその人々が證明した。殊に彼女が苦痛の最後の日の間でもまた醫者の手當を受けてゐる間でも常に優しく乙女の如く愼まやかにしてゐたことは證人等に良い印象を與へた。證人のうちに神學博士があり藥

劑師とその助手とが居り幾多の修業僧や寺僧が居つた。フラ・セレスチノ・アンゼロ・ヂ・サンタ・ンナ (Fra Celestino Angelo di Sant'Anna) と云ふオーガスチン派の修道僧に至つては最詳細に亘つて内容の充ちた證言をしてゐる。これ以上は云ふことを控える。これ以上云ふならば依怙最眞の譏を免れない。神様のみが人間の心を調べる力をもつことを自分は能く知つてゐる。自分がまた心汪溢すれば口自ら進ることも知つてゐる。聖オーガスチンは生活の有様如何はその終焉に於て現はるとの意を述べられた」と云つて證言を結んでゐる。犯人たるフランチェシニは伯爵と云ふ社會的地位があり下級ながら聖職の末を汚して居る以外妙な云ひ方ではあるが結婚後妻に對する嫉妬と云ふ夫に與へられた權利がある。フランチェシニを罰するにはこれ等の點に打勝つ丈けの有力な證據が必要である。兎に角證人等は極端にポムピリアに同情をもつてゐたらしい。斯くてポムピリアは生前夫君か

ら受けた凡ゆる疑惑を洗ひ淨められて瞑目したのである。

掘出された文書の表題に書かれてゐたところの吾人にとつて最も有意義にして至難なる問題が解決されてゐない。不義なる妻を夫は殺し得るや否やと云ふ問題と、若し然りとせば如何なる時に殺し得るや否やとの問題が未解決のままに殘されてゐる。宗教裁判所はこの點について判断に迷つた。遂に時の法王インノセント十二世 (Innocent XII) に裁決を仰いだ。その結果遂にギド・フランチェシニ伯及び加担者の處刑を見たのである。

以上はフロレンスに於ける掘出し物及び其後倫敦に於て手に入つた書類によつて知り得た内容の概略である。斯う述べた丈では今日も世間に有勝ちの老主人對若妻の嫉妬の結果出来上つた兇行犯としか考へられぬかも知れぬ。然し若し今日こんな事件が文明國で起り得たとすれば直接間接の關係者は勿論のこと世間の判断は

非は區々定まることがないであらう。種々なる評家の理論には傾聽すべき幾分の道理が含まれてゐて、萬人をして承服せしめる結論に到達することは容易なことではなからう。

各人の立場によつて異つた評論をさくことを得ると共に今日の法律家の意見を參考することが出来たならば一層の興味を増すことであらう。

フロレンスで有名な掘出し物と云ふ見出しをつけて以上の如く主格を省いて書き立てると現筆者が掘出し物をなした當人であるとの印象を與へたかも知れないが決してさうでない。これは詩人ブラウニングがフロレンスで造つた愛の巢の解散の少し前に掘出した文書でありその内容とその後また倫敦に於て手に入れた文書の内容とを合してその概略を記したまでである。ブラウニングはこれを材料として有名な詩「指輪と書物」(The Ring and the Book) とを作つた。この複雑な事件に對して後世人の批判も亦

區々であることを豫想してブラウニングは直接  
間接の關係者によつて抱かれさうな種々異なる  
批判を述べてゐる。

## 新著紹介

### ○日本鳥瞰圖

西村健二編 第一、二輯

東京淺草向柳原東京都成信發行 昭和六年十月  
各輯五枚一組 三圓五〇錢 一枚七十錢

本圖は地形模型を寫眞にとつたものから描いたもので、地形  
圖からブロックダイアグラムを作つたものではない。従つて  
山の皺を自由につけてある點で判りがよい。殊に線と共に蔭  
をつけてある圖葉もある。第一輯は箱根火山、淺間山、八ヶ  
岳、日光火山群、富士山の五つ、第二輯は甲府盆地、秩父盆  
地、神戸附近、丹那盆地附近、佐川盆地の五つで、前輯は火  
山の地貌を知るによく、後者は主として盆地の形態を窺ふの  
によい。小さな教室であると掛圖として役立つもので中等學  
校の地理科には甚だ手輕な然かも正確な教課用圖として之に  
勝るものを見ない位である。これによつてブロックダイア  
グラムの手本とするのにも足りる。續刊されてゆくのを地學  
教育の爲めに待望する。(中村)

新著紹介

### ○地形表示法としての正形浮上り圖法

On the Orographical Relief Method of Hill  
Delineation. 田中吉郎著 土木學會誌、第十八卷、  
第三號 昭和七年三月

著者は在來の地形圖の方法が觀者をして容易に地勢を了得  
せしめる力に缺くる事を、總ての方法に共通なる短所である  
とし、此の點に對して一步を進める爲め著者の所謂自然的方  
法の根本に溯り、照明學の理論に基き地表面上の陰影の濃淡  
を一つの數式にて表はし、これより定めたる陰影を更に圖上  
に正確に表示する方法を考究した。此の著者の創意に依る圖  
法は數十年來行きづまりの感ある地形圖示の方法に對し、一  
新機軸を出し得たものと信ぜられる。以上は本著の内容梗概  
であつて全篇八頁、緒言、理論的考察、製圖の方法、正形浮  
上り地圖と其の地形學的表現能力、結論の五章に分ち、附圖  
として、著者の方法による富士山及び箱根山附近の地圖寫眞  
地形學的説明圖(幼年期、壯年期、滿壯年期、あすびーて、  
かるでら、襖頭川、浸蝕谷、斷層谷などの形が正形浮上り地  
圖には明に示されると説明してある)及び在來の水平曲線圖  
の三葉を附す。紹介者の如く水平曲線圖を見馴れた者には在  
來の表示法もよく分るが、正形浮上り法はその圖法名の示す  
通り、レリーフがついて見えるので面白い方法だと思ふ。

(上治)